

<謹賀新年>

大抵は、邪悪がこの世の支配権を握り愚昧が大きな発言権をもっている。人々にとって運命はむごく、享楽や幸福は外部の諸々の源泉が当てにならない。

ただ久しきに耐えられるのは、個人の本来有する豊かな心と確たる精神のみである。 （1851年 ショーペンハウエル） （年賀状）

<科学・技術の現段階と新自由主義>

1. いま世界は、科学・技術面ではIT、そして特にAIの進展によって、いよいよ「人は能力に応じて働き、必要に応じて取得できる」という理想郷に入れるのかと想える時代になりました。他方政治、社会面では、国連が気候温暖化防止などで優れた役割を演じている反面、先進国は、大半が権力の腐敗がすすんでいるのではないかと危惧される状態にあると考えられます。

2. 世界は1980年代に転機を迎えました。サッチャー、レーガンの新自由主義政権の登場です。日本では中曽根内閣。新自由主義は、あらゆる領域を経済の評価基準によって測定し表現し、あらゆる人間活動を経済に合わせて変形させようとしています。

それまで人間はホモ・サピエンス（知恵の人）と称され、それを補足して、ホモ・ファーベル（道具をつくる人）、ホモ・ルーデンス（遊ぶ人）などと評されてきましたが、そこへホモ・エコノミクスが加わり、そしてついに人間は、つねにホモ・エコノミクスであることとなり、資本の一部、市場の行為者以外ではありえない者として設定されることになりました。

3. そしてこの市場が、従来の市場と異なる点は、従来の交換の場から競争の場へと変更される点です。平等と連帯の理念は、勝者と敗者の市場原理に取って代わられる。

国家の任務がもっぱら経済成長、グローバルな競争力強化へ結びつけられるとき、正義・公正への関心も後退していく。政治的社会的領域が経済用語で表示されるようになったとき、公共善、公共の福祉にかかわる市民性の基盤が消失していく。すべてヒューマニズムは放棄され民主主義も消える。

とくに新自由主義は、現代世界の基本課題、すなわち生態系の維持、平和、公正、連帯、教育や労働の保護、個人の尊重と自由などの基本的人権の課題を無視するという点からも、世界に通用する資格はありません。

4. ただ新自由主義の思想はすでに、政治、法、社会組織、国民生活などに広汎に入りこんでいます。そして私たちは最近漸く1%と99%の富の格差などの実態も知ったばかりです。しかも地球と諸国民を救うグローバルな選択肢の提示は容易ではありません。いまわかっていることは、AIなどの発展を新自由主義の手に委ねることは、科学・技術と社会との矛盾を一層拡大するということです。

ホモ・エコノミクスから、悠久の歴史と文化と知恵をもつホモ・サピエンスの手に世界が取り戻されたとき、科学・技術は人類の発展に真に資するものとなるでしょう。

希望をもって新しいヴィジョンを求め、長い道程を断固として着実に進んで行きたいと考えます。

皆さんの御健闘を祈念申し上げます。(2018年1月16日「一般社団法人くらしのResearchセンター」賀詞交歓会 会長挨拶)